

精進湖

精進湖は、剡ノ海という広大な湖の西端の名残です。864年に発生した貞観の大噴火の際、剡ノ海の大部分は溶岩流で埋め立てられました。精進湖南岸の入り組んだ岩盤は、溶岩の流れがとまったところです。湖の西には、北の甲府盆地と南の駿河国（現在の静岡県）を結んだ中道往還という古い交易路が通っています。

この湖の名前は、信仰における「勤勉」や「献身」を意味する「精進」という言葉と同じ漢字で書かれます。地元では、これは修験道の開祖である役行者が富士山に登る前にこの湖で清めの儀式を行ったことにちなんだものとされることもあります。（当時この地域はまだ広大な剡ノ海の一部だったため、事実とは言えません。）富士講の巡礼者は、湖越しに素晴らしい富士山の景色が見える精進湖北岸の精進村に近い場所で水行に臨みました。

小さくて奥まったところにあるものの、精進湖は、観光スポットとして有名な山中湖と河口湖に先がけて、富士山北麓で最初に近代的な観光開発が進められた湖でした。1895年、英国出身のハリー・スチュワート・ホイットワースは、彼が「東洋のスイス」と呼んだ精進湖に精進ホテルを開き、世界中からの観光客を迎え入れました。